

ビジョンを語る会（市川町） 主な意見

- ・人生 100 年時代を迎えるにあたり、運動等の健康づくりを行うことで、健康寿命を延ばしていくことが大事
- ・人生 100 年時代に生きがいを持って暮らすためには、高齢者の働く場や学ぶ場、趣味を見つける機会を作ることが大事
- ・高齢者の健康づくりのため、少子化により使われていない学校の運動場を活用して、大きな公園を整備してはどうか
- ・このまま人口が減り続けた場合に、税収も減る中で今までどおりの行政サービスが受けられるのか不安
- ・人口は減るが農地はそのまま残るため、維持管理ができない。農地を大きな区画に整備し直し、スマート農業を導入するとともに、外国人、女性、都市部住民の手を借りる必要がある
- ・外国人労働者が日本語を勉強できる場所が必要。廃校により空いた校舎を利用して、日本語教室を開いてはどうか
- ・耕作放棄地対策として農地の区画整理を行い、残ったいびつな農地（土地）を利用して、外国人の居住地域を整備してはどうか
- ・高齢者が地域の伝統文化等を若い世代に伝えることは、高齢者の生きがいづくりにつながる
- ・高齢者の独居や引きこもりを防止するため、二世帯住宅へのインセンティブを設けてはどうか
- ・地域や家庭における行事の簡素化が進み、人と人との絆・ふれあいが薄くなってきている
- ・インターネットに関わるトラブルや犯罪が増え、青少年の犯罪・非行が潜在化しているため、街頭補導だけでは対応が困難になっている
- ・駅前に交番を配置することで、犯罪の抑止力につながる
- ・市川町はゴルフアイアン発祥の地として魅力あるまちづくりを進めている
- ・子どもの時から地元の偉人について教えることで、郷土愛やふるさと意識が醸成される（進学や就職で都市部に出て行っても、最終的に地元に戻ってくることに期待）
- ・人との関わり合いの中で育つ社会性は重要。オンライン授業で、人とコミュニケーションを取らないまま、社会に出て行くことに不安を覚える
- ・小中学生の多くがスマートフォンを所持するようになり、子どもたちのトラブルが親にも教師にも見えにくくなっている
- ・教師の負担を軽減するため、地域が学校をサポート（地域住民が自身の知恵や技術・ノウハウを生かして昔遊び等の授業や部活動を手助け）
- ・学校教育の魅力を高め、発信することで、子育て世代の UJI ターンを促進
- ・リモートワークの普及により、自然豊かな地域での暮らしを希望する人が増えるだろう。畑付きの宅地（畑仕事や家畜の飼育など自分で食料を生み出せる土地付きの家）を売り出すことで、都市部からの転入者が増えるのではないかと
- ・学校、病院、養護施設、老人施設、公園などを融合・集約したまちづくり（スマートシティ）
- ・いずれの業種も後継者不足が課題であるため、後継者を育成する施設を作り、伝統ある事業の継承を支援